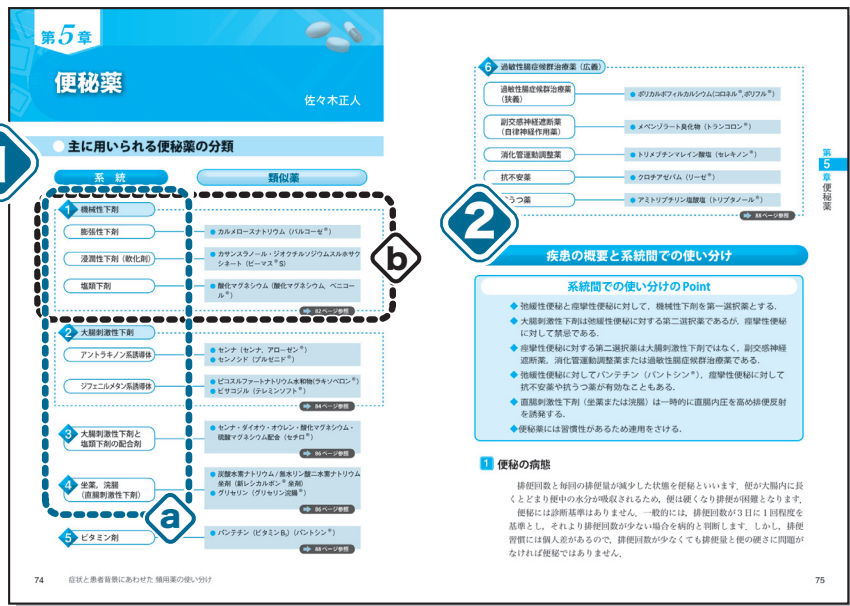


# 本書の構成

本書は、日常診療で患者がよく訴える症状の治療薬について類似する薬剤の特徴や違いを提示し、年齢や基礎疾患など、患者さんの条件にあった適切な薬の選び方と使い方を解説した実用書です。

各章の基本的な構成は以下のようになっています。



**1** 各章で主に用いられる治療薬の分類図です。分類は作用機序などの違いによる「系統 (a)」とその系統に含まれる「類似薬 (b)」の2つの階層からなります。それぞれの階層での使い分けを各章ごとに前半部分と後半部分に分けて解説しています。

**a** 「系統間」の分類 ▶ 使い分けの解説は **2**

**b** 「類似薬」の分類 ▶ 使い分けの解説は **3**

# 目次概略

- 第1章 解熱鎮痛薬 (内服薬, 坐薬)
- 第2章 解熱鎮痛薬 (湿布薬)
- 第3章 頭痛薬
- 第4章 めまい・制吐薬
- 第5章 便秘薬

- 第6章 止痢薬
- 第7章 胃薬
- 第8章 睡眠薬
- 第9章 感冒薬
- 第10章 抗不安薬

- 第11章 鎮咳薬
- 第12章 去痰薬
- 第13章 止痒薬

### 3 各系統での類似薬の使い分け

#### ① 機械性下剤

**薬価性下剤** : カルメロースナトリウム (バルコペゼ)  
**浸潤性下剤 (軟化剤)** : カサスラメル・ジオクチルソジウムスルホサキンネート (ビーマス®S、ベシコール®)  
**塩類下剤** : 酸化マグネシウム (酸化マグネシウム)

#### ② 類似薬の使い分けのPoint

- ◆ 浸潤性下剤と浸潤性下剤の併用はどちらも継続できる。
- ◆ 酸化マグネシウム®には粉末の剤型があり用量を調節しやすい。
- ◆ 酸化マグネシウム®は連用時の習慣性が少ない。妊娠・授乳期にも使用できる。
- ◆ 酸化マグネシウム®には他の便秘薬にはない有害反応 (高マグネシウム血症と高カルシウム血症)、薬物相互作用 (陽イオンの性質と制酸作用に起因する) がある。

#### ③ 機械性下剤の種類と特徴 (表1)

機械性下剤は薬物自体が膨張したり、便を軟化・膨張させることで腸内容物の容積を増やし機械的に (物理的に) 大腸を刺激して蠕動運動を促る薬です。 **浸潤性便秘と浸襲性便秘の第一選択薬**として使われます。膨張性下剤は薬物自体が食物繊維のように水分を吸収しコロイド状に膨張します。浸潤性下剤は界面活性作用 (便の表面張力を低下させ内部に水分を浸透させる) によって便を軟化・膨張させます。塩類下剤は塩類を含んで浸透圧の高い高張液となった腸内容液が水分を腸管腔内に保持し (細胞液は半透膜) 、

#### memo III 薬物相互作用とは?

複数の薬物を同時に服用した場合に薬効が相乗することや、薬効が相殺して有害反応が生じることがあり、薬と薬との相互作用があります。身体活動 ます。効力の強い薬物療法を薬物学的に2 (吸収性、分布性、代謝性、排泄性) における 互な相互作用について理解しておく必要があり、相互作用を薬物動態学的相互作用、作用部位 における相互作用を薬力学的相互作用とい

82 症状と患者背景にあわせた 類似薬の使い分け

#### ④ ⑤ 慢性便秘 (過敏性腸症候群便秘型) の症例

27歳女性。会社員。ストレスからうつとなり約1年前から続く便秘の処方を受けている。前日朝から決まった便秘がなくなり、便の形状はうねりコロコロした硬い塊 (塊糞) となり、排便回数も1回程度に減少した。排便薬を服用しても薬効が得られず、症状が改善しないため受診した。既往歴は抗コリン作用のない軽微であり (抗コリン作用のない抗うつ薬が便秘の原因になることもありますが) 薬剤性便秘を否定し、慢性便秘 (過敏性腸症候群便秘型) と診断した。

#### 処方例

酸化マグネシウム® 1回20g (1日1回) 緩腸粉および  
ポリカルブメルカルシウム (コロネル®) 500g1回1回 (1日3回)  
朝食後

#### 解説

酸化マグネシウム®とコロネル®を同時に服用するとコロネル®の効率が減少することがあります。コロネル®の効果を維持するため、コロネル®を服用後に、酸化マグネシウム®を服用し、コロネル®の最終服用から2時間以上経過後に服用します。片方の成分はセンナ、センナシドを含んでいるものは慢性便秘に対して無効です。薬効が得られないことで症状は改善しません。

84 症状と患者背景にあわせた 類似薬の使い分け

② 前半部分では、主に症状の概要と系統間 (分類図の ④) での薬の使い分けについて解説されています。はじめにPointが箇条書きで表記されており、要点がすぐにわかります。

③ 後半部では、各系統での類似薬 (分類図の ⑤) の使い分けについての解説されています。はじめにPointが箇条書きで表記されており、使い分けの要点がすぐにわかります。

④ 随所に症例が掲載されています。具体的な処方例とその解説を学ぶことで、より理解が深まります。